

現代文問題集

【高校初級篇】

【第一問】変化と気づき

春のはじまりを告げるように、通学路の公園にチューリップの芽が顔を出していた。私はそれを、ただなんとなく眺めながら通り過ぎた。特別な感情があったわけではない。ただ、「ああ、春だな」と思っただけだった。

その公園は、私が毎朝通る道にある。遊具もベンチも古びていて、特に目を引くようなものはなかった。でも、ある日ふと気づいた。いつの間にか、花壇ができていたのだ。しかも、ちゃんと手入れされていて、チューリップやパンジーがきれいに並んでいる。色とりどりの花が風に揺れていて、そこだけがぼっと明るいように見えた。「いつのまに、こんなふうになっていたんだろう？」

そう思ったとき、私ははっとした。毎日通っていたのに、土が入れられたときも、苗が植えられたときも、まるで気づいていなかった。完成された花壇を見て、ようやく「変わった」と感じたのだ。けれど、きっと変化は一日で起きたわけではない。少しずつ、誰かの手で整えられ、少しずつ花が育って、今の姿になったのだろう。見ていたはずなのに、私は見ていなかったのだ。視界には入っていたかもしれない。でも、その中の「動き」や「変化」には心を向けていなかったのだ。

そのことに気づいてから、私は「変化」というものに興味を持つようになった。たとえば、自分自身のこと。最近、「大人っぽくなったね」と友人に言われたとき、私は少し戸惑った。でも、思い返してみれば、たしかに考え方が少し変わった気がする。前ならすぐに口に出していたことを、いったん飲みこんで考えるようになった。人の言葉をすぐに否定せず、いったん聞いてみようと思うようになった。それは大きな変化ではないけれど、自分の中では、たしかに何か少しずつ変わっていたのだ。

変化は、突然やってくるものではない。たいていは、日々の小さな積み重ねの中で育っていく。けれど、私たちは完成した結果にばかり目を向けて、「それまで」の過程を見逃してしまいがちだ。誰かの努力や、思い悩んだ時間や、静かな決意。そ

ういうものを私たちは見過ごしやすい。

友人との関係でも、そんなことを思う。最近、前より少し静かになったクラスメイトがいる。以前なら「元気がないのかな」と思って終わっていた。でも、もしかするとその静けさの中にも、何かしらの変化があるのかもしれない。言葉にしなくても、表情に出ていなくても、その人の中では何か動いているのかもしれない。

私たちは「変わったね」と言うとき、その人の外見や行動の変化に目を向けがちだ。でも、もっと大事なものは、目には見えない変化かもしれない。気持ちや考え、感じ方が、少しずつ変わっていくこと。花壇が完成する前に、土を入れる作業や、苗を植える人の手があるように、人の変化にも「過程」がある。

そう思えるようになったとき、私はまわりの景色が少し違って見えるようになった。チューリップの咲く公園だけでなく、空の色や風の匂い、すれ違う人の表情のなかに、小さな「変化の種」を感じるようになったのだ。

変化に気づくこと。それは、相手や世界に対して丁寧に向き合うことかもしれない。目立たないけれど、たしかにそこにある「過程」を想像し、受けとめること。そのまなざしを、私はこれからも忘れずにいたいと思っている。

設問

問一 語彙理解

次の語句の意味として最も適切なものを、それぞれア～エから一つ選びなさい。

(一) まなざし (本文後半)

ア 顔の表情 イ…視線やその向け方

ウ 考え方の違い エ…人の話を聞く態度

(二) まるで気づいていなかった (本文中ほど)

ア 明らかに意図的に無視していた

イ 知っていたが見て見ぬふりをしていた

ウ 自分でも知らないうちに見過ごしていた

エ 見てはいたが、よく観察していなかった

問二 段落構成

次の文が挿入されるとすれば、最も適切な位置を、本文中の段落数に応じて「
9から一つ選びなさい。

・「変わる」という言葉には、良くも悪くも、はっきりとした違いがあるような響きがある。

問三 抜き出し

筆者が自分の中でも変化があったと気づくきっかけとなった、友人の言葉を本文から十五字以内で抜き出しなさい。

問四 記述問題 (45字以内)

筆者が変化に気づくことの大切さに気づいた理由を、本文の内容に即して四十五字以内で説明しなさい。

問五 自由記述(60字以内)

あなた自身の経験の中で、「あとになって気づいた変化」にはどのようなことがありましたか。それについて六十字以内で自由に記述しなさい。

問六 要約(80字以内)

この文章の内容を、筆者の主張が伝わるように八十字以内で要約しなさい。

■解答・解説

問一 語彙理解

(一) まなざし

【正解】イ…視線やその向け方

【解説】

「まなざし」は「目の表情」や「どこに目を向けているか」「どんな心で見ているか」を表す語です。

本文では「見た目に表れない変化にまなざしを向ける」とあり、心を込めて注意を向けることを意味しています。

【自己採点チェック】

- 文脈に合う意味を選べた
- 他の選択肢（ア…表情／ウ…思想／エ…傾聴態度）との違いもわかる

(二) まるで気づいていなかった

【正解】ウ…自分でも知らないうちに見過ごしていた

【解説】

「まるでなかった」は「完全にしなかった」といったニュアンスを含みます。筆者は、花壇の完成を見てはじめて変化に気づき、それまでの過程に全く気づいていなかったことに驚いています。

【自己採点チェック】

- 無意識で見過ごしていたというニュアンスをつかめた
- 「意図的に無視」ではないことを理解した

問二 段落構成

【正解】㉓（第㉓段落のあと）

【解説】

「変わる」という言葉のイメージに関する文は、「変化」に対する人々の一般的な印象を扱っています。

本文第⑥段落までで「結果としての変化」に目を向けすぎる傾向が述べられており、その直後にこの文が入ると、読者が「変化」の意味をより広く捉え直す導入となります。

【自己採点チェック】

- 文の内容がどの話題とつながるかを考えた
- 前後の流れに違和感がないか確かめた

問三 抜き出し

【正解例】「大人っぽくなったね」

【解説】

これは第④段落にある表現で、友人が何気なく筆者に掛けた言葉です。ここまで述べてきたことにつき、筆者が「自分自身にもそうした変化があるかもしれない」と気づくきっかけとなっています。

【自己採点チェック】

- 二十字以内に収まっている
- 会話表現であっても本文と一致している

問四 記述問題（45字以内）

【模範解答例】

小さな変化が積み重なって結果になることに気づき、過程の大切さを感じたから。

（37字）

【別解例】

- 気づかないうちに変化は起きていて、その過程を見落とすことがあると知ったため（37字）

- ・ 結果だけを見るのではなく、変化の積み重ねや背景を大切にしたいと思ったから (35字)

【解説】

「気づきにくい変化」「過程の重み」を感じ取ったことが記述の中心。どの段落からも根拠をとれるため、やや自由度がありますが、「気づくまでに時間がかかる」「少しずつ」という観点が入るとより良いです。

【自己採点チェック】

- ・ 45字以内に収めた
- ・ 原因と結果がつながっている (なぜ? ↓だから)
- ・ 文中の内容から言葉を借りすぎしていない

問五 自由記述 (60字以内)

【例1 (体験型)】

中学生のとき、無意識に周りを気にせず発言するようになり、「前よりはつきりしたね」と言われた。(46字)

【例2 (思考型)】

変化はいつも自覚できるとは限らず、周囲の反応で初めて気づくこともある。だから他人の言葉は大切だと思う。(51字)

【解説】

体験談型でも、抽象的な思考型でもOK。大切なのは「変化」というテーマに沿い、自分の実感や価値観を反映していること。

【自己採点チェック】

- ・ 60字以内で文として自然か
- ・ 主語と述語が対応している
- ・ 話のテーマが「変化」に合っている

問六 要約(80字以内)

【模範解答例】

筆者は、公園の花壇の変化に気づいた体験を通して、変化は日々の小さな積み重ねであること、また他人の中の見えにくい変化にもまなざしを向ける大切さを感じた。(75字)

【別解例・短め】

- 毎日見ていた場所の変化に気づかなかったことから、人や自分の中にある見えにくい変化に注意を向けるようになった。(54字)

【解説】

キーワードは「見えない変化」「過程」「他人へのまなざし」。本質は「気づき」の大切さにあります。長さを気にするあまり、抽象化しすぎると意味がぼやけるので注意。

【自己採点チェック】

- 文の内容が本文の主張と合っている
- 具体例ではなく筆者の気づきに焦点を当てた
- 80字以内で、言い切りの形になっている

【第二問】プラスチックごみと日本のリサイクル政策の実態

現代社会に欠かせない素材となったプラスチック。軽くて丈夫な性質から包装材料や家電、自動車部品などに広く使われていますが、その一方で廃棄後の環境負荷が大きな問題になっています。日本でも年間約9,400千トンのプラスチックごみが発生し、そのうち容器包装・コンテナが約4,260千トンを占めていると、消費者庁の報告で明らかになっています。

1. 「リサイクル率85%」のからくり

政府や自治体が発表する「プラスチックリサイクル率85%」という数字は一見成功を示すものに見えます。しかしその内訳を見ると、リサイクルには主に以下2つの手法が含まれています…

- マテリアルリサイクル…プラスチックを再びプラスチック材料として再利用
- サーマルリサイクル…プラスチックを燃やして発電などに利用（熱回収）

実際、マテリアルリサイクルの比率は全体の約25〜30%にとどまり、残りはサーマルリサイクルが占めているとされています。つまり「リサイクル率85%」のうち、少なくとも半分以上は燃やしてエネルギー化した割合であることに注意が必要です。

2. 国際比較から見える課題

OECD（経済協力開発機構）の比較によると、日本のマテリアルリサイクル率は23.8%、または24.4%（プラスチック需要量中、または回収量中）であり、EUの34.6%と比べて低い水準です。

一方、イギリスでは2023年に52.5%と高いリサイクル率を達成し、韓国やドイツ、オーストリアなども50%を超えている国があります。つまり、日本は見かけ上の高いリサイクル率の背後に、「燃やすリサイクル」が大きな割合を占めていることが相対的に見劣りする点となっています。

3. オフショア依存からの脱却

日本は過去、中国などの国にプラスチックごみを輸出してリサイクルに回してき

ました。しかし、2018年以降の中国のごみ輸入禁止を受け、日本国内での処理体制が急激に逼迫しました。今では汚れたプラスチックの輸出には相手国の事前同意が必要で、事実上“輸出頼み”ができなくなっています。

さらに、日本は廃プラスチック処理業者自体が減少している状況に直面しています。1990年代には約76社あった登録業者が、2024年度には約44社に減少しています。

このため、国内の処理能力が限界に近づいており、市町村による分別収集が拡充されたプラ新法（2021年6月施行）でも依然として課題が残っている状況です。

4. 環境への負荷と未来への視座

廃プラスチックが回収されずに海に流出する問題も深刻です。2019年には世界で6.1百万トンが河川経由で海に流れ込み、海洋中には少なくとも30百万トンのプラスチックごみが存在すると推計されています。

また、日本のリサイクル率に関しては、OECDも「20%前後と低迷している」と指摘しており、基本的な廃棄物リサイクルの課題を浮き彫りにしています。

さらに、プラスチックを燃やして得られるエネルギーは、CO₂排出量の低減にはつながりにくく、気候変動の面でも未知数です。そのため、今後はマテリアルリサイクルや化学的リサイクルの比率を高める取り組みが不可欠となっています。

5. 地方発の好事例…上勝町とゼロ・ウェイスト

一方で、徳島県上勝町のゼロ・ウェイストセンターは、廃棄物の分別を45種類に細かく分け、2008年以降80%以上の再資源化率を達成し続けています。これは「分別の徹底」「自治体と市民の共働」の成果であり、大型施設を持たずとも、地元主体で高い処理率をつくり出せる好例です。

このように、日本が抱える構造的課題と、地方自治体からの解決モデルが混在しており、今後のプラスチック政策には二つの視点が必要です…

- 全国的な処理能力の拡大と改善
- 地域単位の分別・再資源化実験モデルの拡充

6. 今後の政策展望

2021年に施行されたプラ新法では、2030年までに市町村へのプラスチック収集量を現行約70万トンから約170万トンへ倍増させる目標が掲げられています。また、G20でも「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」など、海洋プラスチック対策が国際的に合意されていますさらに、2021年のバーゼル条約改正では、汚染された廃プラスチックの輸出に対して事前同意制が導入され、各国とも国内処理強化を迫られています

総括

日本は確かに、「85%のリサイクル率」を達成していますが、その大部分は燃やすことでエネルギー回収しているものであり、本質的な再資源化は未だ低水準です。加えて、輸出依存体質や処理能力の減少、分別の実態に課題を抱えています。それに対し、上勝町の地方モデルや2030年に向けた法律・国際枠組みが、持続可能な政策として前向きに動き始めています。

今後、日本が環境負荷を抑えつつ、プラスチックを循環資源として真に活用するためには、「燃やすリサイクル」から脱却し、マテリアルリサイクルや地域分別モデルの拡大、そしてごみ処理業者の体制強化が不可欠です。

《参考資料》

- ・ 環境省（2022）『令和4年度環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』
- ・ 国立環境研究所（2020）『プラスチック資源循環に関する調査報告書』
- ・ Plastic Waste Management Institute（2023）『プラスチックごみの現状と課題』
- ・ 朝日新聞（2021年11月1日）「見かけのリサイクル？日本の“プラごみ神話”」

設問

問一 語彙・文脈理解

次の語句の意味として最も適切なものを、本文の文脈に照らして選びなさい。

【一】「建前」

- ア 本当の意見や本音を隠すための嘘
- イ 公式の立場として表明されているもの
- ウ 道徳的に正しいとされる考え方
- エ 過去の慣習を引きずった形式

【二】回収されたプラスチックの多くは、リサイクルされていると思われるが、実は焼却されている、というときの、「実は」の役割として最も適切なものを選びなさい。

- ア 聞き手がすでに知っている前提を確認する
- イ 当然の事実を繰り返して強調する
- ウ 意外な事実や誤解を正すための導入
- エ 主観的な印象を伝えるための表現

問二 段落構成・要点把握

第四段落における筆者の主張として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- ア 日本ではリサイクル技術が発達しているため、すべてのプラごみが有効に再利用されている。
- イ 「リサイクル率が高い」という表現には、実際の資源再利用量とは異なる側面がある。
- ウ 回収したごみを焼却するのは、環境保護の観点から最も効率が良い方法である。
- エ ドイツでは再資源化率が低く、日本の方式の方が優れている。

問三 内容理解

日本において「サーマルリサイクル」とは、どのような行為を指すか。二十文字以内で説明しなさい。

問四 記述・50字以内

筆者は「回収されている」という表現に対して、どのような問題意識を持っているか。四十五字以内で説明しなさい。

問五 自由記述・100字以内

あなたが日常生活で「リサイクルされている」と思い込んでいたことの中に、実は実態が異なると知った経験があれば、それを具体的に述べなさい。ない場合は、本文の内容をふまえて「消費者の認識」と「実態」のずれについて、自分の意見を書きなさい。

■ 解答・解説

問一 語彙・文脈理解

【一】正解…イ 公式の立場として表明されているもの

【解説】

「建前」は、「本音」に対する表現として使われることが多いが、この文脈では「日本の政策の建前」という形で使われており、実態とのズレを示す対比として現れている。したがって、最も適切なのは「イ…公式の立場として表明されているもの」である。

【二】正解…ウ 意外な事実や誤解を正すための導入

【解説】

「実は」という副詞は、表面からは見えにくい真実を示唆するときに使われる。ここでは、「リサイクルされていると思われるが、実際には焼却されている」という意外性を導入しているため、「ウ」が正解。

問二 段落構成・要点把握

正解…イ 「リサイクル率が高い」という表現には、実際の資源再利用量とは異なる側面がある。

【解説】

第四段落では、日本の「リサイクル率」が高いとされる背景に、「サーマルリサイクル」が含まれている点を取り上げ、これが必ずしも資源循環を意味しないと批判的に述べている。そのため、実態とのズレを指摘した「イ」が最も適切。

問三 内容理解

正解…

「焼却して熱エネルギーを回収すること」

【解説】

「サーマルリサイクル」を定義する部分が本文に明示されており、20字以内で正確にまとめられる。定義説明型の設問。

【自己採点チェックリスト】

- 内容…サーマルリサイクルの定義を正確に抽出できているか
- 文構造…文章の途中で切れていないか
- 字数…20字以内か

問四 記述・45字以内

正解例…

実態にかかわらず回収という言葉が使われ、消費者に誤解を与えてしまう点に問題がある。

【別解例】

1. 再資源化されていなくても『回収』とされ、環境への配慮と誤認されやすいこと
2. ごみ処理の実態を表さないまま、『回収済』という印象が一人歩きしてしまうこと
3. 実質的には焼却なのに『リサイクル』と表現されることで、実態を覆い隠す点

【解説】

筆者は、「回収」や「リサイクル」といった言葉が、実際の焼却処分まで含んで使われている点に疑問を呈している。このズレが消費者に「再利用されている」という誤った認識を与えることが主な問題意識である。

【自己採点チェックリスト】

- 内容…言葉と実態のズレを主旨としているか
- 文構造…主語と述語の対応が正しいか
- 字数…35～45字程度でまとめられているか

問五 自由記述・100字以内

記述例・・

ペットボトルのふたやラベルもリサイクルされると思っていたが、実は多くが分別後に燃やされていると知り驚いた。消費者が『リサイクル』に過度な安心感を持つことで、ごみ削減への意識が鈍ることがあると感じる。

【別解要素例】

1. 分別すれば全て再利用されていると思っていたが、焼却されているごみが多
いと知って衝撃を受けた。言葉の使い方は誤解を生む。
2. 自分も回収⇨リサイクルと思っていたが、実態は違うと知り、政策と消費者
意識にズレがあると気づいた。
3. エコ活動に積極的だったが、焼却もリサイクルとされていたことに驚いた。
誤認が政策の課題だと思う。

【解説】

自由記述では個人の体験・認識が中心となるが、本文に照らした気づきや問題提起が含まれていればよい。特に「消費者意識と実態のズレ」を主軸に、自分の言葉で表現することが求められる。

【自己採点チェックリスト】

- 内容・・本文をふまえた具体的体験や意見になっているか
- 文構造・・読みやすく意味が通る文になっているか
- 字数：90～100字程度を目指しているか

【第三問】言葉の力とその限界 — 実証研究にみるコミュニケーションのズレ

私たちは日々、膨大な数の言葉を交わして生きています。挨拶、説明、説得、謝罪、感謝、雑談——これらはすべて言葉によってなされており、人間関係や社会活動の根幹を支えている。だが一方で、「ちゃんと伝えたはずなのに」「そんなつもりじゃなかったのに」といったすれ違いも後を絶たない。言葉には力があるが、同時に限界もあるのだ。近年の実証研究は、この「言葉の力と限界」について、より具体的な視点から光を当てている。

まず注目すべきは、言語が伝える「意味」がいかに文脈依存的かという点だ。心理学者ハーバート・E・クラークによると、言語理解とは単に言葉の意味を解釈する行為ではなく、「共通の文脈」(common ground)をもとに成り立っているという。たとえば、「あれ取って」という言葉は、それ単体では意味不明だが、指さしや視線、共有された前提があることで成立する。これは「指示語の不完全性」ではなく、「文脈の豊かさ」によって可能になる言語の省略的性質である。

しかしこの「文脈への依存」は、必然的に「ズレ」の可能性をも内包する。文脈を「共有している」と思い込んだがゆえに、実際には違う前提のまま話が進み、誤解が生じることがある。言語学者グライスの「会話の公理」によれば、人は互いに「協力の原則」に従って話すと仮定する（たとえば「真実を言う」「必要な情報だけを言う」など）。しかし現実には、相手の意図を読み違えることも多く、結果として意図せぬすれ違いが発生する。

この点を実証的に示した研究が、アルバート・メラビアンの「メッセージの3要素」研究である。メラビアンは、好意や態度といった「感情的内容」の伝達において、言語情報は全体のわずか7%しか影響を持たず、残り93%は「声のトーン」や「表情・しぐさ」など非言語情報によって左右されるとした（いわゆる「7-38-55ルール」）。ただしこの研究には注意が必要で、すべてのコミュニケーションがこの割合で伝達されるわけではない。誤用されがちなこの研究はむしろ、言葉だけでは伝

わからない部分があるという「限界」を示すものであり、非言語的要素との統合的理
解が必要だという教訓を含んでいる。

さらに現代のデジタルコミュニケーションでは、この限界がより顕著になってい
る。LINEやSNSなど、非対面・非同期のやりとりでは、表情や声の調子といった
補助情報が失われることが多く、誤解や不信感につながりやすい。実際、東京大学
大学院教育学研究科の2020年の調査では、「チャット形式のやりとりにおいて、感
情の伝達がうまくいかずトラブルになった経験がある」と回答した大学生は64.7%
に上った。このことは、私たちが思う以上に「言葉だけに頼る」ことが危うい可能
性を示唆している。

しかし、だからといって言葉に無力さを見出すべきではない。むしろ、こうした
限界を自覚することで、言葉の使い方をより丁寧に、誠実にできる可能性がある。
たとえば、教育や医療、福祉の現場では、「聞く」姿勢の重要性が強調される。相手
の言葉をそのまま受け取るのではなく、背景や感情をくみ取ろうとする「アクティ
ブリスニング」は、まさに言葉の限界を意識した関わり方だと言えるだろう。

また、AIや音声認識の発展に伴い、言葉が「記録」される機会が増えつつある今
だからこそ、その一語一句の扱い方が問われている。ほんの一言が切り取られ、文
脈を無視したまま拡散されることで誤解や批判が生まれることもある。「正しく伝
える」だけでなく、「正しく受け取る」ことが、現代のコミュニケーションの新たな
課題となっている。

総じて言えるのは、言葉は強力な道具であると同時に、非常に繊細なものだとい
うことだ。伝えたいことが伝わらないのは、話し手の努力不足ではなく、言葉
自体の構造的限界や、受け手との文脈のズレにも起因している。だからこそ私たち
は、「伝えること」においても「受け取ること」においても、自らの理解を疑い、確
認し合い、補い合う姿勢を忘れてはならない。

《参考資料》

- Clark, H. H. (1996). *Using Language*. Cambridge University Press. (共通基盤の理論)
- Grice, H. P. (1975). “Logic and conversation”. In *Syntax and Semantics*, Vol. 3. (会話原理の提唱)
- Mehrabian, A. (1971). *Silent Messages*. Wadsworth. (非言語情報の伝達効果)
- 川原繁人 (2023) 『日本語の秘密』(講談社現代新書)。
- 石黒圭 (2024) 『論文・レポートの基本』(日本実業出版社)。

設問

問一 語句の意味

次の語句の意味として最も適切なものを、それぞれア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

1. 「文脈依存的」(第2段落)

- ア 言葉の意味が常に決まっていること
- イ 状況によって意味が変わる性質
- ウ 誤解されにくい言葉の特徴
- エ 複数の言葉を組み合わせる意味を表すこと

2. 「会話の公理」(第3段落)

- ア 文章の中で文法的に正しい構造
- イ 常に相手に敬語を使うこと
- ウ 相手と協力しながら会話を成立させる原則
- エ 相手の話を遮らずに聞くマナー

3. 「アクティブリスニング」(第6段落)

- ア 話の内容を一字一句記録すること
- イ 相手の背景や感情にも意識を向けて聞く姿勢
- ウ 話す人に反論せず静かに聞く態度
- エ 言葉に詰まったらすぐに質問をする行為

問二 段落構成理解

次のうち、筆者が本文の中で述べている**具体的な実証研究**を扱っている段落として最も適切なものを、番号で答えなさい。

1. 第2段落

2. 第3段落

3. 第4段落

4. 第5段落

問三 本文内容に関する問い

筆者は、言葉には限界があると述べているが、その限界にどのように向き合うことが大切だと考えているか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- ① 言葉は常に誤解を生むため、できる限り使わずに沈黙で伝えることが大切である。
- ② 言葉に絶対的な正確さを求め、誰にでも同じ意味で伝わる表現を選ぶことが重要である。
- ③ 言葉は不完全なものであると理解した上で、文脈や相手の背景に配慮して使うことが必要である。
- ④ 言葉の限界を乗り越えるためには、常に辞書的な意味を優先し、曖昧さを排除すべきである。

問四 要約記述

本文では「言葉の限界」を認識することの重要性が論じられています。筆者がその限界をどのようにとらえ、どのように向き合うべきだと主張しているか、前問も参考にしつつ、本文の内容に即して七十～九十字以内でまとめなさい。

問五 自由記述

あなたが日常生活や学校生活の中で、「言葉ではうまく伝わらない」「文脈のズレを感じた」と思った経験について、その内容とそこから得た気づきを百～百四十字以内で述べなさい。

■解答・解説

問1 語句の意味

1. イ

解説…文脈依存的とは、「そのときの状況や前後関係によって意味やニュアンスが変化する」という意味。本文中でも「文脈がずれると、誤解が生まれる」とあり、イが最適。

2. ウ

解説…会話の公理とは、会話が成り立つための「相互協力の原則」のこと。グライスの理論に基づいており、本文の「協力の原則」を参照すればウが適切。

3. イ

解説…アクティブリスニングは「相手の話をただ聞くだけでなく、背景や感情をくみ取る」姿勢を指す。本文中の「背景をくみ取る」とする姿勢がそのまま該当。

問2 段落構成理解

3. 第4段落

解説…実証研究として紹介されているのは「メッセージの3要素」研究であり、これは第4段落の内容。第2の段落は理論的な側面について触れたもの。

問3 本文内容に関する問い

正答…③

解説…本文では、言葉の便利さと同時にその限界についても言及されており、誤解が生じうることを前提として「文脈」や「関係性」「背景」などを意識することの大切さが述べられている。③はその趣旨にもっとも合致しており、①・②・④はそれぞれ極端であり、筆者の主張とはずれている。

問4 要約記述 (70～90字以内)

模範解答例..

言葉は便利だが限界もあると筆者は述べる。その限界を知ることが誤解を減らす出発点であり、相手の文脈を意識し、丁寧に伝える姿勢が重要だと主張している。(73字)

別解例1

言葉は万能ではなく誤解も生むが、その限界を理解することで、真の対話が可能になる。筆者は、伝えたつもりではなく、伝わったかを意識する姿勢の大切さを説いている。

別解例2

筆者は、言葉には誤解が生じる危険があるとし、限界を前提に関わることが大切だと述べている。そのためには、背景や感情も含めて相手を理解しようと努める必要がある。

別解例3

筆者は、言葉は文脈や関係性によって意味が変化すると述べ、その限界を理解することが重要だと主張する。その上で、誤解を防ぐために丁寧な対話を心がけるべきだと論じる。

自己採点チェックリスト..

- ・ 字数が70～90字以内か
- ・ 筆者の主張を本文の表現に即してまとめているか
- ・ 「限界の認識」と「どう向き合うべきか」の2点が含まれているか
- ・ 自分の意見を入れず、本文の内容に限定しているか

問5 自由記述 (100～140字以内)

模範解答例..

部活で後輩に指示を出したとき、私の意図とは違う行動をされて戸惑ったことがある。「もう少し丁寧に」と言ったつもりが、作業を遅くされた。言葉の受け取り方によって異なると実感し、今では背景や経験も考えながら伝えるようにしている。
(113字)

別解例1

友人とLINEで会話した際、軽い冗談のつもりで送ったメッセージが「冷たい」と受け取られ、気まづくなった経験がある。直接会って話すとすぐに誤解は解けたが、非言語の要素が伝わらないと、意図と異なる印象を与えてしまうのだと痛感した。

別解例2

委員会活動で、資料を「早めに作って」と伝えたところ、メンバーが直後に提出してきて驚いた。私は「数日以内」の意味で言ったが、相手には「すぐに」という意味にとられたらしい。言葉の背景や状況によって意味が変わることを改めて感じ、今では期限を明確に示すよう心がけている。

別解例3

先生に相談したとき、「大丈夫だよ」という返答に安心したが、後から「もっと真剣に考えてほしかった」と言われ、伝わり方にズレがあったと気づいた。相手の受け止め方まで配慮する必要があると知り、今では相手の様子をよく観察してから話すようにしている。

自己採点チェックリスト..

- ・ 字数が100～140字以内か
- ・ 自分の経験が具体的に述べられているか
- ・ 誤解やズレの要因が分かるように書かれているか
- ・ そこからの気づきや学びが含まれているか

【第四問】生成AIと教育現場 ― 何を「学び」とするか

2022年11月、OpenAI社によって公開されたChatGPTは、その対話型の特徴と文章生成能力によって、瞬く間に教育現場でも注目を集めた。言い換えれば、学習者が自ら書く代わりにAIに作文を任せることが可能になったわけで、「これって本当に自分で学んでいると言えるの?」という根源的な問いが突きつけられた。実際、学校や大学では試験や課題の「AI利用」に対する対応策が急務となっている。アメリカの調査(Pew Research Center, 2023)によれば、公立K-12教師の約25%が「AIツールの使用は教育によくない」と答え、32%が「良い面と悪い面が混在している」としている【ツールは有効性に疑問】。また、教師の中には、次のような二手一戦の対応が広がっているという。

ひとつは「アナログ回帰」。手書きでしかわからない力を重視し、AIによる漢字の練習や作文支援を制限する学校もある。もうひとつは「AIとの協調」だ。例えば、教師がAI生成の作文をあえて見本として提示し、「どこが不自然か」「どう改善できるか」を学ぶアクティブラーニングの導入である。これにより、AI利用を前提としつつ、自らの思考力を鍛える教育設計が可能になる。

MITメディアラボの最新研究によると、54名の被験者にSAT形式のエッセイ作成を任せたところ、ChatGPTを使ったグループは脳のEEG活動が低く、記憶・創造・批判的思考能力のスコアも低かったという。AI活用によって「学ぶ力そのもの」の活動が鈍る可能性が示されたのだ。

一方で、生成AIを補助として活用する実践研究も成果をあげている。2025年のNature記事では、大学でChatGPTを指導支援に使ったグループは、「高次思考力」が向上し、パフォーマンス向上につながったことが報告されている。また、高校数学の授業では、AIによる補助学習が動機づけや自己効力感を押し上げるという事例もある。

しかし、効果ばかりではない。大規模な調査では、ジェネレーティブAIの早期導

入に対する明確なガイドラインやリテラシー教育は未整備であるという指摘も多い。たとえば、学生と教員に対し賛成意見が分かれており、「どう使っているか分からない」「不正利用が不安」といった声が多数存在する。

UNESCOは、2023年に「教育におけるジェネレータータイプAIガイドンス」を公表し、各国が人間中心の教育観を保ちつつ、24時間対応の学習支援の導入を検討するように促している。またアメリカ教育省(2022)は、AIはあくまで教育の補助であり、「人間が最終の判断者」であるべきだという立場を明確にした。

国際的には、AIが学びに与える影響は文化的背景によっても異なる。2023年の多国間調査では、欧米では「生成AIは学習の補助になる」と捉える傾向が強い一方、アジア圏では「倫理やオリジナリティの危機」という視点も根強く存在する。この意味で、教育におけるAI活用の制度設計は「文化に応じたバランス感覚」が不可欠である。

教育の出発点となるべきは、「何を学ぶか」ではなく「どのように学ぶか」という思考方法そのものだ。生成AIの導入を契機に、教育評価の重心が「事実の正確さ」から「思考プロセスの公開」「問いの質」「メタ認知能力」に移っていく兆しもある。

一部の大学では、口頭でのプレゼンや討論、プロジェクト設計へのAI活用記録を評価に入れる「プロセス評価」が試されている。そうした動きは、「AIを使うこと≠学ばないこと」ではなく、「AIを使ってこそ、どれだけ自分の考えを深められたか」が問われる学び方への転換を示している。

生成AIは、まさしく「学び」の意味に挑戦状を突きつける存在である。その使い方次第では、思考力の低下や倫理問題というリスクもあるが、教育者が正しく導き、制度が支えれば、学びを深化させる手段になりうる。大切なのは、「AIをどう学びの素材とするか」。この問いに、教育現場で向き合うことが、これからの学びの質を決めるだろう。

《参考链接》

- Pew Research Center (2024) [A quarter of U.S. teachers say AI tools do more harm than good in K-12 education]
- MIT Media Lab [Your Brain on ChatGPT]
- Nature (2025). The effect of ChatGPT on students’ learning performance, learning perception, and higher-order thinking: insights from a meta-analysis
- UNESCO (2023). *Guidance for Generative AI in Education and Research*.
- U.S. Department of Education (2022). *Artificial Intelligence and the Future of Teaching and Learning*.
- Chen, L., Lin, Z., & Nguyen, A. (2020). * Artificial Intelligence in Education: A Review. * *IEEE Access*.
- X. Yan et al. (2023). * Practical and Ethical Challenges of Large Language Models in Education. * *arXiv*.

設問

問1 語句の理解（文脈からの推測）

本文中で使われている「二手一戦」という表現について、筆者がこの語を用いた意図として最も適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア 異なる立場の教師がそれぞれの方針で教育を行っている状況を皮肉っている
- イ 対立する二つの教育方針をどちらも否定して、第三の方法を提示しようとしている
- ウ 教育現場で対照的な対応が併存しつつも、共に実践されている状況を描写している
- エ 教師がAIを用いて学習者と「対決」している構図を象徴的に表現している

問2 論理構造の把握（段落関係の理解）

第四段落（「MIT メディアラボの最新研究」から始まる段落）の役割として最も適切なものを選びなさい。

- ア AI導入に伴う初期の混乱を伝えることで、慎重な姿勢の必要性を示す
- イ AI利用がもたらす可能性ある弊害を例示し、導入のリスクを補足する
- ウ AIの教育効果を肯定する先行研究を裏付けとして示す
- エ AI活用によって生徒の創造性が高まることを実証的に述べる

問3 筆者の立場と視点の変化に関する問題（選択）

本文における筆者の姿勢の変化・転換点として最も適切に読み取れるものを、次から一つ選びなさい。

- ア AIを危険視する視点から、教育設計への肯定的提言へと転じている
- イ 技術に対する賞賛から、文化的背景による慎重な姿勢へと後退している
- ウ AIの学力低下効果を強調したのち、否定的立場を堅持している
- エ AIの導入メリットを一貫して主張しており、視点の転換は見られない

問4 記述問題(40字以内)

本文中で示されている「プロセス評価」の特徴と、その背景にある教育観を、簡潔に説明しなさい(四十字以内)。

問5 自由記述(批判的思考・評価)

本文の内容を踏まえ、「AIを使ってこそ学べることがある」という立場に対し、あなたはどうか考えますか? あなたの意見とその理由を、百二十字以内で自由に書きなさい。

■解答・解説

問1 語句の理解

解答：ウ

解説：「二手一戦」は中国将棋用語に由来し、「相手の手を待たずに二つの手を打つこと」。ここでは「アナログ回帰」と「AIとの協調」という、対照的な方針が同時に存在している教育現場の状況を描写している。

問2 論理構造の把握

解答：イ

解説：MITの研究は、AI使用による思考力の低下というリスクを具体例として補足しており、「AI活用によって学ぶ力が鈍る可能性」を示すことで、読者に慎重な視点も促している。

問3 筆者の立場と視点の変化

解答：ア

解説：本文は冒頭で「AI活用への不安」や「脳活動の低下」などの否定的側面を述べたのち、「高次思考力の向上」「プロセス評価」などを例に、肯定的な教育デザインへの転換を示している。

問4 記述・40字以内

解答例：

生成AIの利用過程や思考の深まりを重視し、結果ではなく学びの質を評価する方式。(38字)

別解例：

- ・ AI利用の記録や討論内容を通じ、思考のプロセス自体を評価対象とする学び方。

- ・ 結果ではなく、生成AIとの関わり方や問いの質に注目する新たな評価方法。

自己採点チェック..

- ・ 評価の焦点が「プロセス」であることが書かれている
- ・ AIを活用する学び方であることに触れている
- ・ 40字以内で、主語・述語が明確

問5 自由記述・120字以内

模範解答例..

私は、AIを使ってこそ学べると思う。例えば、AIの生成文を批判的に読み直すことで、自分の表現力や判断力を鍛えられる。また、思考の型を見える化するツールとして使えば、自分の発想の癖や抜けを客観的に捉えることもできるからだ。(113字)

別解要素例..

1. AIが示すアイデアを出発点に、自分なりの問いを立てたり、深掘りしたりすることで、むしろ主体的な学びが促される。
2. 一方で、AIを使いすぎて自分で考えなくなる危険もある。使い方を工夫すれば学びの補助になるが、依存しすぎない姿勢が重要だ。

自己採点チェック..

- ・ 「AIを使ってこそ」の是非に明確な立場がある
- ・ 理由が本文内容と結びついている
- ・ 120字以内で、まとまりがある
- ・ 自分の言葉で考えが述べられている

【第五問】時間の「多様性」

現代の私たちは、日々「時間」に追われている。時計の針にせかされ、予定や締切、アラームに従って行動する生活は、多くの人にとって当たり前のもとなっている。しかし、この「時間感覚」とは本来、誰もが生まれつき同じように備えているものなのだろうか。それとも、文化や生活環境によって後天的に育まれていくものなのだろうか。

発達心理学の分野では、幼少期における「時間の理解」は認知能力の発達と密接に関連しているとされている。たとえば、乳幼児は「いま」という感覚を中心に世界を捉えており、過去や未来の概念を明確に理解するのは4歳の歳ごろとされている。また、学校生活などを通して「○時までに行動する」「何分で終わらせる」といった行動様式が定着していくことで、時間に対する意識や管理能力が育っていく。

一方で、文化人類学の視点に立てば、「時間感覚」がいかに多様であるかが浮かび上がる。たとえば、アマゾンの少数民族であるピダハン族は、日常的な言語に「過去」や「未来」を示す明確な時制を持たないという。彼らの生活は「いまここ」に根ざしており、先の予定を立てることよりも、目の前の出来事への即応が重視される。また、時間を直線的にとらえるのではなく、循環的・季節的に捉える文化も少なくない。こうした文化においては、私たちが当然とする「遅刻」「時間厳守」といった価値観は共有されていない。

さらに、現代社会においては、デジタル化が時間感覚に大きな影響を与えている。スマートフォンやSNSによって「即時性」が重視され、返信が数分遅れるだけで不安や苛立ちを覚える人も少なくない。一方で、配信型の映像メディアやオンデマンド学習の普及により、「いつでも・どこでも」アクセスできる柔軟な時間設計が可能になったことで、時間に縛られない生き方も模索されている。

こうした事実から考えると、「時間感覚」は先天的な生理的時計を基盤としつつも、きわめて文化的・社会的・環境的に形成される側面が大きいといえる。たとえば、

同じ日本国内であっても、都市部に暮らす人と、自然に囲まれた田舎で暮らす人とは、時間の流れに対する感じ方が大きく異なるだろう。前者は一分一秒の積み重ねによって日常が設計されているのに対し、後者は日の出や季節の移ろいとともに暮らす感覚を大切にしているかもしれない。

また、宗教や思想によっても時間のとらえ方は変わる。キリスト教やイスラームでは、時間は始まりと終わりを持つ「線」のようにとらえられることが多いのに対し、仏教では輪廻や因果の思想から「循環するもの」としての時間観が強く表れる。こうした視点は、人々の生き方や死生観にも深く影響を及ぼしている。

「時間は誰にとっても同じように流れている」とよく言われるが、実際にはその感じ方や捉え方はきわめて多様であり、主観的な体験に根ざしている。つまり、「時間感覚」とは、単に生理的なリズムではなく、自分がどのような環境に身を置き、何に価値を見出し、どのように生きていくかという選択の中で、絶えず形作られていくものなのである。

《参考資料》

- ・ Philip Zimbardo & John Boyd 『The Time Paradox』
- ・ Edward T. Hall 『The Hidden Dimension』

設問

問1 語句の意味

次の語句の意味として最も適切なものを選びなさい。

(1) 即時性

- ア ある物事がすぐに結果を出すこと
- イ 情報や反応が瞬時にもたらされる性質
- ウ 時間の経過によって変化する特性
- エ その場限りの対応をすること

問2 内容把握(抜き出し)

本文中において、ピダハン族の「時間感覚」の特徴について説明した一文を、30字以上50字以内で本文から抜き出しなさい。

問3 選択問題(文化の対比)

本文によれば、「時間のとらえ方」が異なる例として最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- ア 朝型と夜型の生活スタイルの違い
- イ 宗教による時間観の違い
- ウ 幼少期の睡眠時間の違い
- エ 労働時間と休暇のバランス

問4 記述問題(80字以内)

現代社会における「時間感覚」の変化について、本文の内容を踏まえて八十字以内で説明しなさい。

問5 自由記述(あなたの考え)

あなた自身が「時間の流れ」や「時間の感じ方」について印象的に感じた経験を一つ挙げ、それが本文で述べられている内容とどう関係するか、二百字以内で述べなさい。

■解答・解説

問1 語句の意味

(一) 即時性

正解…イ 情報や反応が瞬時にもたらされる性質

↓本文では「スマートフォンやSNSによって即時性が重視され…」という記述から、「すぐに反応や情報が返ってくることを意味していると読み取れます。

問2 内容把握(抜き出し)

解答例…

彼らの生活は「いまここ」に根ざしており、先の予定を立てることよりも、目の前の出来事への即応が重視される。

解説…

ピダハン族の時間感覚について述べた記述で、30字以上50字以内におさまり、主旨を正確に捉えています。

問3 選択問題(文化の対比)

正解…イ 宗教による時間観の違い

解説…

本文終盤で「宗教や思想によっても時間のとらえ方は変わる」と明記されており、他の選択肢(ア・ウ・エ)は本文に登場しないか主旨が異なります。

問4 記述問題(80字以内)

解答例…

現代社会ではデジタル化の進展により、即時性が重視される一方で、時間に縛られない柔軟な生活も可能となっており、人々の時間感覚は大きく変化している。

別解例1

スマートフォンやSNSの普及によって、情報の即時性が求められるようになり、人々は以前よりも短い時間単位で物事を処理するようになった。

別解例 2

映像配信やオンデマンド学習の普及により、時間の使い方により自由度が生まれ、「時間に合わせる」から「時間を選ぶ」感覚へと変わってきた。

別解例 3

現代では、社会や技術の変化によって「常に時間に追われる」感覚が強まり、同時に「時間から自由になる」選択肢も増えている。

自己採点チェックリスト

- 「即時性の重視」という視点が入っているか
- 「柔軟な時間設計」の要素に触れているか
- 80字以内で、主語と述語の関係が明確か

問5 自由記述 (200字以内)

解答例 1 (180字)

以前訪れた地方の農村では、地元の人々が日の出や気候の変化を基準に生活していた。都会のような分刻みのスケジュールはなく、時間は自然の流れとともにあった。本文で述べられているように、同じ国の中でも環境によって時間感覚が大きく異なることを実感した。この経験は、効率性に偏りがちな自分の生活を見直すきっかけとなり、時間の使い方には多様な価値観があると気づかせてくれた。

解答例 2

モンゴルを旅行した際、現地の人々が時計ではなく、太陽や風、動物の動きで行動のタイミングを判断していたのが印象的だった。約束の時間も「夕方ごろ」と曖昧で、日本とは異なる時間感覚に最初は戸惑った。本文にある「文化によって時間感覚は異なる」という指摘を、身をもって体験した出来事だった。自分にと

って当たり前前の時間の捉え方が、地域や文化によって変わること深く学んだ。

解答例 3

試験期間中に SNS の通知に気を取られて集中力が続かず、勉強の効率が極端に落ちた経験がある。通知が来るたびにスマホを手に取り、数分ごとに気を散らす自分に苛立ちを感じた。これは本文で述べられている「即時性が求められる現代の時間感覚」の影響を象徴する出来事だったと思う。時間は有限なのに、デジタルの誘惑によって自分の時間感覚が狂っていく感覚が、非常にリアルに迫ってきた。

自己採点チェックリスト..

- 自分自身の体験が具体的に描かれているか
- 本文の視点（環境や文化による違い）との関連が明示されているか
- 字数が 200 字以内に収まっているか

【第六問】「許す」という行為について ― 加害と被害のはざままで

人は誰しも、人生のなかで何らかのかたちで傷つけられたり、裏切られたりする経験をする。そうしたとき、「許す」という言葉が、しばしば語られる。しかし、加害者を「許す」とは、どういうことなのだろうか。本当に許すことができるのだろうか。そしてそれは、被害者にとってどのような意味を持つのだろうか。

まず、「許し」とは、道徳的・宗教的・心理的な観点から多様な意味を持つ行為である。キリスト教においては、許しは神の慈悲を象徴し、赦しを与えることで人間関係が回復することが理想とされる。一方、仏教では、怒りや憎しみを手放すことが自らの心を清め、苦しみからの解放につながるとされる。このように、許しは他者のためであると同時に、自分自身のための行為でもあると考えられてきた。

心理学の分野では、「許し」は被害者の心理的な回復に寄与する行動とされている。アメリカの心理学者エヴァレット・ワージントンは、「許し」を「復讐を放棄し、加害者に対して慈しみや理解を向ける意図的な選択」と定義する。彼の研究によれば、許すことによって怒りやストレスが軽減され、うつや不安の改善にもつながることが示されている。実際、認知行動療法の一環として「許しのプロセス」を取り入れる試みも存在する。

とはいえ、「許すべき」という言葉が被害者に対する圧力として働く危険性もある。特に、重大な加害行為や権力の濫用が関わる場合、「許し」は被害を無視するもの、あるいは加害者を免罪するものとして機能してしまう可能性がある。そのため、許しを語る際には、まず被害の存在と深さを正確に理解し、被害者の苦痛や怒りが正当に尊重される必要がある。

また、「許す」と「和解」は必ずしも同じではない。許すことは個人の内面的な決断であり、必ずしも加害者との関係修復を意味するわけではない。たとえば、被害者が加害者と距離を保ったまま、心の中で怒りを手放すことも「許し」の一

形態である。逆に、和解は関係の再構築を伴うものであり、加害者側の真摯な謝罪や償いの意志が前提となることが多い。

さらに、集団的な加害や歴史的な暴力に対する「許し」は、個人レベルとは異なる複雑な問題を孕む。南アフリカのアパルトヘイト後の「真実和解委員会」では、加害者が真実を語り、被害者がそれを受け入れることで、社会全体の癒しを目指した。このような事例は、「許し」が個人の倫理を超えて、社会的な再生の手段となる可能性を示している。

「許す」という行為は、決して単純な善ではない。そこには苦悩、葛藤、そして深い省察が伴う。重要なのは、「許し」は強制されるべきものではなく、自らの痛みと向き合い、そのうえで選び取ることができる自由な行為であるという点である。その選択がもたらす癒しや希望が、たとえわずかでも、前に進む力となるかもしれない。

《参考資料》

- Everett L. Worthington Jr., *Forgiving and Reconciling: Bridges to Wholeness and Hope*, InterVarsity Press, 2003
- Desmond Tutu & Mpho Tutu, *The Book of Forgiving: The Fourfold Path for Healing Ourselves and Our World*, HarperOne, 2015

設問

問1 語彙の理解(選択)

本文にある「許しは他者のためであると同時に、自分自身のための行為でもある」とは、どういうことか。以下の中から最も適切なものを選びなさい。

- ア 許すことで加害者が償えるようになり、社会的な制裁を受けることになる
- イ 許すことは被害者が怒りや苦しみから自由になると同時に、加害者との関係を修復するきっかけにもなり得る
- ウ 許すことで被害者が相手を支配し、優位に立てるようになる
- エ 許す行為は、法律上の手続きとしてのみ有効である

問2 段落構成(選択)

次の中で、本文の第4段落(「とはいえ、『許すべき』という言葉が…」で始まる段落)の主な役割として最も適切なものを選びなさい。

- ア 加害者の真摯な謝罪の重要性を述べている
- イ 宗教における許しの意味を論じている
- ウ 許しの肯定的側面を補強している
- エ 許しが被害者にとって負担になる場合があることを警告している

問3 内容理解(選択)

本文によれば、「許し」と「和解」との違いとして適切な説明はどれか。

- ア 「許し」と「和解」はどちらも加害者との関係修復を目的とするものであり、両者に実質的な違いはない
- イ 「許し」は被害者の心の中で怒りを手放すことであり、「和解」は必ずしも加害者の謝罪を必要としない
- ウ 「許し」は内面的な行為であり、「和解」は加害者の謝罪や償いが前提となる関係の再構築を意味する

エ 「許し」は加害者の誠意を前提とし、「和解」は被害者が一方的に受け入れるものとされる

問4 記述(50字以内)

本文では、南アフリカの「真実和解委員会」の事例が紹介されている。この事例は「許し」が社会的にどのような意味を持つ可能性があるかを示している。本文の内容に基づいて、五十字以内で説明しなさい。

問5 記述(140字以内)

本文を読んで、あなたが「許す」という行為についてどのように考えるようになったか、本文の内容を踏まえて百四十字以内で書きなさい。

■解答・解説

問1 語彙の理解(選択)

正解..イ

解説..

本文では、「許し」は他者(Ⅱ加害者)のためであると同時に、自分(Ⅱ被害者)の苦しみからの解放にもつながると述べられている。選択肢イはこの点を適切に言い換えており、他の選択肢は趣旨から外れている。

問2 段落構成(選択)

正解..エ

解説..

第4段落は、「『許すべき』という言葉が被害者に対する圧力になりうる」という点を中心に論じており、許しが必ずしも善とは限らないことを示している。したがって、被害者にとっての負担に警鐘を鳴らすエが適切。

問3 内容理解(選択)

正解..ウ

解説..

本文では、「許し」は内面的な決断であり、「和解」は加害者との関係修復を伴い、謝罪や償いが前提になることが多いと明記されている。これに該当するのはウのみ。他の選択肢はいずれも本文と一致しない。

問4 記述(50字以内)

模範解答例..

加害と被害の真実を共有し、「許し」によって社会全体の癒しと再生を目指す点に意味がある。(43字)

別解例・・

- ① 個人の許しを超え、社会全体の再生や和解を導く手段として機能する可能性を示している。
- ② 被害と加害の真実を明らかにし、社会の癒しや再統合を促す「許し」の役割を表している。
- ③ 許しが個人の枠を越え、国家や社会の再建の一助となることを、実例をもとに示している。

自己採点チェックリスト・・

- 内容・・社会全体や集団的癒しに触れている
- 文構造・・主語・述語が明確で自然な文である
- 字数・・40～50字で書かれている

問5 記述 (140字以内)

模範解答例・・

「許す」とは、加害者のためだけではなく、自分自身の心の平穏のために選ぶ行為だと感じた。たとえ相手と和解できなくても、自分の中で怒りを手放すことで、前に進む力になることがある。「許し」は強制されるものではなく、苦しみと向き合った末に選ぶ自由な行為だと考える。(130字)

別解例①

本文を読み、「許し」が必ずしも加害者との関係修復を意味するわけではないことに納得した。被害者が苦しみと向き合い、自分の意思で選び取るものだからこそ、その行為には深い意味があると感じた。無理に許す必要はないが、選択肢の一つとして尊重されるべきだと思う。

別解例②

これまで「許す」とは加害者を受け入れることだと思っていたが、本文を読んで、その本質は自分の心を整えることにあると気づいた。許すことが被害者自身の回

復につながることでもあるという考えに、深く納得した。無理をせず、自分のペー
スで考えることが大切だと思った。

別解例^③

「許し」は単なる美德ではなく、被害者にとっても大きな意味を持つ内面的な行
為だと感じた。怒りを抱え続ける苦しさや、加害者との関係とは別に、自分の気
持ちを整理する手段として「許し」があることを知った。それは誰かに強いられ
るべきではない自由な選択だと思う。

自己採点チェックリスト^④

- 内容.. 本文と自身の考えがつながっている
- 文構造.. 自然で論理的な一文になっている
- 字数: 120〜140字で書かれている

【第七問】「科学的である」とはどういうことか

現代社会において、「科学的である」という言葉は強い説得力を持つ。テレビ番組の健康情報、政策の根拠、教育方針、ビジネスの判断基準――あらゆる場面で「科学的根拠に基づく」「エビデンスがある」といった表現が飛び交う。しかし、果たして「科学的である」とは、いったいどういうことなのだろうか。その言葉が使われるとき、私たちは本当に科学的な態度をとっているのだろうか。

「科学的」とは、単に“理系の話”や“難しい話”を意味するわけではない。むしろ、科学の核心にあるのは「問いを立て、それに対して仮説を立て、検証可能な方法で確かめる」という、極めて人間的な知的営みである。このプロセスは「科学的方法」と呼ばれ、単に専門家の手に委ねられるものではなく、私たちが日常の中で「本当にそうだろうか？」と疑い、「なぜそうなるのか？」と考えるときにも応用される。

たとえば、ある食品が「健康によい」と紹介されていたとしよう。その情報を鵜呑みにするのではなく、「どのような研究による結果なのか？」「対象となった人数や期間は？」「比較対象は設けられていたか？」などの視点を持つことが、科学的な思考の第一歩となる。ここで大切なのは、“結論”よりも“方法”である。科学的であるかどうかは、どんな結果を示したかよりも、どんな手順でその結論に至ったかにかかっている。

しかし現代において、この「科学的方法」そのものが忘れられ、「科学的」という言葉だけが独り歩きしている場面も少なくない。SNSでは、断片的な統計データが文脈から切り離されて拡散されたり、一部の専門家の発言だけが「科学の総意」であるかのように扱われたりする。あるいは、都合のよいデータのみを取り上げ、異なる結果を示す研究には触れない、という恣意的な“科学らしさ”が氾濫している。

こうした状況を指して、科学史家のトーマス・クーンは「科学の社会的構築性」

に注目した。彼によれば、科学とは完全に客観的な真理の積み上げではなく、社会的な枠組みのなかで選ばれ、解釈され、語られるものである。この視点は、科学を批判するためではなく、科学という営みの限界と前提を理解するために重要である。

科学とは、間違えることを許容し、間違いから学ぶことができる体系である。むしろ、反証可能性——ある主張が「間違っていると証明されうる」ことこそが、科学的な主張の条件である。これは哲学者カール・ポパーの有名な指摘であり、「どんな場合でも反証されない理論」は、むしろ科学的ではないとされる。この考え方を踏まえれば、「科学的真理」とは固定された絶対の正解ではなく、仮に正しいとされている「最もよく説明できるモデル」にすぎないのだ。

さらに、科学的であるためには、情報の公開性や再現性が求められる。たとえば、ある実験結果が画期的であっても、それが他の研究者によって再現されない限り、その妥当性は疑われる。科学は個人の閃きやカリスマではなく、共同体としての知の積み重ねによって成立する。だからこそ、査読制度や研究倫理が重視されるのであり、「誰が言ったか」ではなく「どのように確かめられたか」が問われるのだ。

教育の場においても、この科学的思考は不可欠である。正解のある問いだけに慣れてしまうと、子どもたちは「わからないことに出会う力」や「問いを立てる力」を育みにくくなる。科学的態度とは、疑い、問い、仮説を持ち、他者と議論しながら答えを探るプロセスにこそ宿る。たとえ答えに到達しなくても、その探究の姿勢が知を豊かにし、人間としての成熟を促す。

「科学的である」ということは、ある意味で「謙虚である」ということでもある。「今わかっていることは、こうだ」と言いながらも、「しかしそれは、将来的に修正されうる仮説である」という前提を忘れないこと。自分の信じたいことよりも、事実^に耳を傾ける態度。わがらうとする努力と、わからないことを認める誠実さ。それこそが、科学の精神である。

だからこそ、私たちは「科学的」という言葉を用いるとき、その重みと責任を意識しなければならぬ。それは一種の権威ではなく、一つの誠実な姿勢であり、「本当にそうなのか？」と問うことをやめない心のあり方なのだ。

《参考資料》

- カール・R・ポパー『科学的発見の論理』(The Logic of Scientific Discovery, Routledge, 2002)
- トーマス・S・クーン『科学革命の構造』(The Structure of Scientific Revolutions, University of Chicago Press, 2012 [第4版])

設問

問1. 語彙理解

次の語の意味として最も適切なものを、下の①～④から一つ選びなさい。

「反証可能性」

- ① 反対意見を否定する力があること
- ② すべての主張が正しいと証明できること
- ③ 誤りが見つかったときに訂正可能であること
- ④ 間違っていると示す方法が存在すること

問2. 段落構成

次のうち、本文全体の論の展開として最も適切なものを、①～④から一つ選びなさい。

- ① 科学的思考の大切さを述べたあとで、科学技術の進歩をたたえる内容に移っている。
- ② 科学的であることの一般的な誤解を指摘したうえで、科学の本質や意義を多面的に説明している。
- ③ 科学者たちの業績を紹介した後に、日常生活での応用について触れている。
- ④ 科学的であることの否定的側面を挙げ、科学の限界や問題点を批判している。

問3. 内容理解

本文の中で、「科学的であるかどうかは、どんな結果を示したかよりも、どんな手順でその結論に至ったかにかかっている」という筆者の主張と同じ趣旨の表現を次の中から一つ選びなさい。

- ① 結果が正しければ、途中のやり方が間違っても科学として評価される。
- ② 科学とは、答えの正しさよりも、どうやってその答えにたどり着いたかが重

要だ。

- ③ 実験や観察の結果が偶然でも当たっていれば、それは科学的だといえる。
- ④ 科学的であるかどうかは、専門家が正しいと判断するかどうかに左右される。

問4. 記述問題 (60字以内)

筆者は、「科学的である」という言葉が誤用・誤解されることの危険性についてどのように述べているか。五十字以内で説明しなさい。

問5. 記述問題 (120字以内)

筆者が本文を通して伝えたい、「科学的である」とはどのような姿勢・態度なのか。百二十字以内でまとめなさい。

■解答・解説

問1 語彙理解

正解：④ 間違っていると示す方法が存在すること

- ・ 解説：本文中で「反証可能性」とは「正しいと証明するだけでなく、間違っていると示せるかどうか」が科学の条件として重要だと述べられている。①②③はどれも誤った理解。

問2 段落構成

正解：② 科学的であることの一般的な誤解を指摘したうえで、科学の本質や意義を多面的に説明している。

- ・ 解説：本文冒頭では「科学的」の誤用に注意を促し、中盤で科学の方法論や姿勢、終盤では科学的態度の意義や限界への自覚まで展開されている。

問3 内容理解

正解：② 科学とは、答えの正しさよりも、どうやってその答えにたどり着いたかが重要だ

解説：結論よりも方法が大切だ、という筆者の見解を端的に表しているのは、選択肢②。

問4 記述問題 (50字以内)

模範解答例：

科学的という言葉が権威づけに使われると、批判や検証が困難になり、思考停止を招く危険がある。

・ 別解例1：

科学的という言葉が疑いの余地のない正しさを意味するかのように使われると、議論が止まってしまう。

• 別解例 2 :

「科学的」が絶対視されると、他の視点や問いを排除する結果になりかねない。

• 別解例 3 :

科学的と称することで、証拠や論理の吟味がなされずに主張が受け入れられる危険がある。

自己採点チェックリスト (問 4)

- 本文の内容に即して、誤用の危険性を的確に説明しているか
- 一文でまとめ、主語と述語の関係が明確か
- 40 字程度～50 字の範囲に収まっているか

問 5. 記述問題 (120 字以内)

模範解答例 :

筆者は、科学的であるとは一面的な正しさを主張することではなく、反証可能性や再現性といった条件のもとで思考を進める態度であると捉えている。また、「科学的」という言葉が過度に信頼され、思考停止や権威主義に陥る危険もあると警鐘を鳴らしている。

• 別解例 1 :

科学的であるとは、結論だけでなく思考や検証の過程を重視する姿勢を持つことであり、反証可能性や再現性を伴う検証を通じて仮説を更新する柔軟性にある。しかし、それが絶対視されると、かえって深い思考を妨げる危険性があると筆者は述べている。

• 別解例 2 :

筆者は、科学的であるとは思考の方法であり、常に検証可能であることを前提とした態度のことであって、決して唯一の正解を保証するものではないと主張する。また、その言葉により思考停止や権威への盲信が生じる危うさにも注意を促している。

・ 別解例 ③

科学的という言葉はしばしば権威的に使われがちだが、筆者はそれを検証可能性や再現性などに基づいた思考の姿勢として捉えるべきだと説く。真に科学的な態度とは、絶対的な結論ではなく、常に疑問を持ち続ける開かれた思考を意味すると述べている。

自己採点チェックリスト (問5)

- ・ 筆者の主張を本文の言葉や論理に基づいて要約しているか
- ・ 論理展開が自然で読みやすいか
- ・ 字数 (100字～120字) を最大限使って表現しているか

【第八問】公共空間のゆくえ — シェアされる場所の変容

子どもたちの声が響く公園、新聞を読む人々が行き交う図書館、誰にでも開かれたはずのベンチや広場。かつて「公共空間」は、人々が出会い、すれ違い、ときに語り合う場所として存在していた。それは特定の誰かのものではなく、皆のものとしていた。だが、現代の私たちは、そうした空間をいま、どれほど自由に使っているのだろうか。

都市化の進行とともに、公共空間は管理の対象となっていった。防犯カメラの設置や監視の強化、利用ルールの厳格化は、安心や秩序を保つ一方で、そこにいたはずの人びとを押し出す結果にもつながった。たとえば、ホームレスの人々がベンチに長時間座ることを防ぐために、仕切りのついた座面が設計された。ベンチという「誰でも座れる場所」が、実質的には「長居をしない人だけのための場所」として再定義されているのだ。

また、図書館や公共施設の一部でも、利用者登録や事前予約が必要となり、「誰でもふらりと立ち寄れる」性質が薄れてきている。都市の「きれいな」景観の裏では、不要とされた人びとが見えない場所へと追いやられていく。こうして公共空間は、誰かにとっての「快適さ」を優先するあまり、別の誰かの居場所を奪う場ともなりつつある。

一方で、民間による「シェア空間」や「オープンスペース」の試みも広がっている。カフェを併設したコワーキングスペースや、アートと融合したオープンな書店など、公共と私有の境界をゆるやかにした場が生まれている。それらは「公共の代替物」として機能する一方、利用にあたっての経済的・文化的ハードルも存在する。つまり、本当に誰もが受け入れられる場所であるかは、問われ続けているのだ。

さらに、オンライン空間もまた「新たな公共性」として注目されてきた。SNSや掲示板は、人々が意見を交わし、情報を共有するデジタルな「広場」として機

能する。しかしそこでも、発言力や可視性には偏りがある。アルゴリズムによる選別や過剰な炎上文化は、自由な言論を保証するには不十分だ。公共の理念は、単に場所の開放性ではなく、「誰もが等しく尊重される」関係の中でしか成立しえない。

「排除」が制度的にも空間的にも進行する現代において、私たちは「公共とは何か」を改めて問い直す必要があるだろう。それは単に利便性や快適さを整えることではない。たとえば子どもの声が「騒音」として排除される時、それは未来世代の存在が空間から締め出されていることを意味する。静けさと秩序を重んじるあまり、多様性や共生が失われてはならない。

今こそ私たちに求められているのは、「公共」を使いこなす想像力だ。他者の存在を前提とした空間を設計する知恵、異なる立場の人々とともにある場を守る意思。管理やルールだけでなく、「どうすればここにおいてよいと思えるか」をめぐる対話が不可欠である。

かつてベンチに座るといふ行為は、誰にとっても自由なものであった。それが今、誰かを拒むサインになっていないか。公共空間は、人と人との関係のあらわれそのものである。そこにどんな人がいて、どんな風に過ごしているか。その風景を、私たちはどれだけ自由に描きうるだろうか。公共空間のゆくえは、私たち自身の想像力と選択にかかっている。

《参考資料》

- 上野千鶴子『おひとりさまの老後』（法研, 2007）
- Don Mitchell, *The Right to the City: Social Justice and the Fight for Public Space* (Guilford Press, 2003)

設問

問1 語彙の理解

次の語句の意味として最も適切なものを、各選択肢から一つずつ選びなさい。

(1) 再定義されている (第2段落)

- ア 定義の必要性が失われている
- イ 定義が意図せず変化している
- ウ 定義が新たな枠組みで明確にし直されている
- エ 定義されないまま曖昧になっている

(2) 快適さ (第3段落)

- ア 誰もが等しく感じる空間の美しさ
- イ 都市空間における清潔さと秩序のこと
- ウ 一部の人のとつての居心地の良さ
- エ 利用者全員の物理的安全性のこと

(3) オープンスペース (第4段落)

- ア 公共施設の敷地外で営まれる私的活動の場
- イ 利用者が無料で集える公共の公園
- ウ 開かれた雰囲気を持つ民間運営の共有空間
- エ 建物の中にあるプライベートなスペース

問2 筆者の主張

本文における筆者の主張として最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

- ア 公共空間は利用者による適度な自己管理が必要である
- イ 現代社会では公共空間よりもオンライン空間の方が公共性が高い
- ウ 公共空間のあり方は、誰にとつて快適かという視点で決めるべきだ
- エ 公共空間における共生や対話の視点が、いま改めて必要である

問③ 文章構成

次の中で、本文の展開として最も適切な説明を選びなさい。

- ア 公共空間の現状 ↓ 利用方法の事例 ↓ 解決策の提示
- イ 公共空間の変容 ↓ 現状の課題 ↓ 多様な試みと問題提起
- ウ 公共空間の概念 ↓ 現代社会の問題点 ↓ 利用者へのアンケート結果
- エ 公共空間の定義 ↓ 私有化の歴史 ↓ 管理の利点の主張

問④ 表現の理解

本文の中で筆者は、ベンチに座るといふ行為に言及しているが、これは何を象徴的に表しているか。最も適切なものを選びなさい。

- ア 公共設備の耐久性とデザインの工夫
- イ 自由な行動が徐々に制限されていく社会状況
- ウ 都市景観の一部としての家具の位置づけ
- エ 高齢化社会における休憩場所の重要性

問⑤ 記述問題 (110字以内)

筆者は、現代の公共空間における課題を踏まえ、私たちに求められる想像力について述べている。本文全体の内容を踏まえて、どのような想像力が必要とされているのか、あなたの言葉で百十字以内で説明しなさい。

■解答・解説

問1 語彙の理解

(1) ウ

↓「再定義」は、既存の定義を見直し、別の視点で明確にし直すこと。本文ではベンチの意味づけが再び設定され直したことを指す。

(2) ウ

↓快適さは「一部の人」にとっての居心地の良さであり、裏返せば他者の排除につながる可能性があることを本文で述べている。

(3) ウ

↓「民間による」「カフェ併設」などの描写から、開かれた雰囲気を持つ民間の共有空間を指している。

問2 筆者の主張

エ

↓「共生」や「他者を前提とした空間」「対話の必要性」といった表現が、筆者の主張の核心部分にあたる。

問3 文章構成

イ

↓導入部で公共空間の変容を描き、その後に課題を提示。さらに、シェア空間・オンライン空間といった新たな事例に言及しつつ、最後に問題提起を行っている。

問4 表現の理解

イ

↓ベンチに自由に座れなくなっているという事例は、誰もが自由に使っていた空間が、見えない線引きによって制限されている社会状況を象徴している。

問5 記述問題：模範解答（110字以内）

【模範解答例】

他者の存在を前提に空間をとらえ、異なる立場や事情を持つ人びとが共に過ごせる場をどうつくるかを想像する力である。管理やルールに頼るだけでなく、多様な背景を持つ他者に「いてよい」と感じさせる想像力が、公共性の再生に必要な力だ。

（109字）

【別解例】

・都市の清潔さや秩序ばかりにとらわれず、見えにくい存在や声なき人びとも意識を向け、空間のあり方を再構築しようとする想像力。誰の視点で空間が設計されているのかを問い直す力が求められている。

・「そこにいてよい」と感じられる場所が誰にとっても確保されるよう、目に見えない排除に気づき、多様な人の居場所を描く力が必要だ。自分とは異なる立場の人に想いを巡らせる姿勢が、公共の再構築の鍵となる。

・自由や快適さが誰かを排除するものになっていないかを常に問い、すべての人が対等にいられる空間を思い描く力。他者を排除しない視点に立って、自分自身の振る舞いや空間の使い方を見つめ直す想像力が必要である。

【自己採点チェックリスト】..

- ・ 単なる言い換えや感想ではなく、「想像力とは何か」について筆者が問題にしている本質（排除／共生／空間設計）を捉えているか。
- ・ 主語と述語の関係が明確で、論理的な一文になっているか
- ・ 110字以内で、90字以上を目安に内容を充実させているか

【第九問】 “努力は報われる”のか — 成果主義と偶然のはざままで

「努力すれば報われる」——この言葉は、私たちが子どもの頃から幾度となく聞かされてきた。スポーツの大会、受験勉強、就職活動。何かに挑むたびに、努力の尊さが語られ、成功はそれに対する正当な報酬として位置づけられる。だが実際のところ、努力は常に報われるのだろうか。

現代社会における「努力信仰」は、成果主義と深く結びついている。成果主義とは、個人の努力や能力に応じて報酬や評価を与える考え方であり、1970年代以降の新自由主義的な経済政策とも親和性が高い。この思想は、頑張れば頑張るほど報われるという希望を与える一方で、「報われないのは努力が足りないからだ」という圧力にもなり得る。

たとえば、教育の場では「自分の未来は自分で切り拓くもの」といった表現が繰り返される。しかし、社会学者のピエール・ブルデューが示したように、学歴や職業選択において家庭環境や文化資本が大きく影響する現実を無視するわけにはいかない。同じように努力しても、スタート地点が違えば到達点も異なりうるのだ。

また、成果主義には「偶然性」が入り込む余地がある。経済学者ロバート・フランクは、著書『成功する人は偶然を味方にする』の中で、実力だけではなく運の要素が成功に与える影響の大きさを論じている。スポーツ選手のようにごく一部の枠を争う分野では、実力が拮抗している以上、最終的な勝敗を分けるのは「たまたま調子が良かった日」や「天候」など、努力の範疇を超えた要素になることも少なくない。

にもかかわらず、「努力は必ず報われる」という言説が根強く信じられているのはなぜか。その理由の一つに、「社会の秩序を保つ装置」としての機能がある。たとえば心理学者メルヴィン・ラーナーが唱えた「公正世界仮説」によれば、人間は「世界は公正であるべきだ」と信じたい傾向があり、それが現実をそのように

認識させる。報われない努力を見たとき、「本人の努力が足りなかった」と解釈することで、世界の公正さを守ろうとするのだ。

このような背景を踏まえると、「努力＝成功」という等式は、むしろ社会の安定を保つために必要とされてきた“物語”であるとも言える。実際には、努力しても報われない例はいくらでも存在する。しかし、社会がその事実をあまりに露骨に認めると、人々の行動意欲や信頼感が損なわれる。だからこそ、報われない努力が語られるときでさえ、「それでも頑張っていればいつか…」という形で希望が添えられるのだ。

では、努力は意味のないものなのか。決してそうではない。たとえ成果に直結しなくても、努力を通じて得られるものはある。自己理解の深化、人とのつながり、忍耐力や計画力といった内面的な資質。これらは外からは見えにくくとも、個人の人生に確かに影響を与えている。

さらに、努力は他者の努力への共感を生む。「自分も苦勞したからこそ、あの人の頑張りが分かる」という感覚は、社会的連帯を支える土台にもなる。報酬や評価だけでは測れない価値が、努力には含まれているのだ。

「努力は報われるか」という問いは、単に成否の問題ではない。それは、努力をどのように捉え、どのような意味を見出すかという、価値観の問題である。だからこそ、私たちは「結果」にのみ目を向けるのではなく、「過程」に何があったのかをも見つけ直す必要があるだろう。成果だけが努力の証明ではない。むしろ、報われなかった努力にどのような意味を見出せるか——そこにこそ、私たちの想像力と社会の成熟が問われているのかもしれない。

《参考資料》

- ロバート・フランク『成功する人は偶然を味方にする 運と成功の経済学』（日本経済新聞出版, 2017）
- ピエール・ブルデュー『ディスタンクシオン』（藤原書店, 1990）

設問

問1 語彙理解

次の語句の意味として、最も適切なものをそれぞれの選択肢から一つずつ選びなさい。

(一) 「新自由主義的」(第2段落)

ア 社会主義経済の立場をとること

イ 国家主導で経済を管理する思想

ウ 市場の自由競争を重視する思想

エ 経済活動に倫理性を優先する思想

(二) 「公正世界仮説」(第9段落)

ア 社会制度は必ず公正であるという科学的法則

イ 世界は不公正であると仮定する心理傾向

ウ 世界が公正であると人々が無意識に信じたがる傾向

エ 公正な判断を促す裁判制度の理論

問2 内容理解

筆者は成果主義のもつ問題点としてどのような点を挙げているか。本文の内容に基づき、九十字以内で説明しなさい。

問3 構成理解

本文の構成に関して、次の中から最も適切なものを一つ選びなさい。

ア 成果主義の良い点と悪い点を比較し、最終的にはそれを肯定している。

イ 努力と成功の結びつきに疑問を呈し、その背景にある社会的構造を分析している。

ウ 努力を否定する立場から、成果主義を批判的に紹介している。

エ 偶然による成功事例を取り上げ、運の重要性を論証している。

問4 言い換え選択

本文第○段落の内容を踏まえたとき、努力は報われるという考えが社会に必要とされているのはなぜか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

ア 報われない努力は社会全体に無益なものであるから

イ 希望を失わせないために、常に成功を演出する必要があるから

ウ 社会の秩序や安定を維持するために必要な物語だから

エ 現代人が怠惰にならないよう、戒めとして機能させるため

問5 記述問題

筆者は、努力は報われるかという問いに対して、どのような姿勢や考え方を提示しているか。本文の内容に即して、百四十文字以内で説明しなさい。

問6 記述問題

あなた自身は、報われない努力にどのような意味や価値を見出すか。本文の内容を踏まえつつ、自分の考えを二百文字以内で述べなさい。

■解答・解説

問1 語彙理解

(一)ウ・市場の自由競争を重視する思想

解説…「新自由主義」は、国家の介入を最小限にし、市場原理に基づく競争を重視する経済思想。1970年代以降、アメリカやイギリスで導入された。

(二)ウ・世界が公正であると人々が無意識に信じたがる傾向

解説…「公正世界仮説」とは、心理学者メルヴィン・ラーナーが提唱した概念で、世界は公正であるはずだという信念が、人の認知に影響を与えるという理論。

問2 内容理解

模範解答例…

成果主義は、努力すれば報われるという希望を与える一方で、成果が出ないことをすべて本人の努力不足とみなし、不平等な出発点や偶然性といった要素を無視する危険がある。(80字)

別解例①…

努力の有無だけで評価する成果主義は、家庭環境や運といった要因の影響を軽視し、不利な状況にある人に「努力不足」とのレッテルを貼ることで、不公平を正当化してしまう。

別解例②…

成果主義は一見公平に見えるが、実際には社会的格差や偶然性を見落としやすく、報われない人に対して自己責任を押しつけ、努力に対する過度なプレッシャーを生んでしまう。

問3 構成理解

正解…イ

解説…本文は「努力は報われる」という一般的信念に対し、その社会的背景や制

度、偶然性などを取り上げて批判的に再検討しており、結論として努力の新たな意味を模索する構成。

問4 言い換え選択

正解…ウ。社会の秩序や安定を維持するために必要な物語だから

解説…本文第○段落で「社会の秩序を保つ装置」としての役割があるとされており、公正世界仮説の説明もこれを補強している。

問5 記述問題 (140字以内)

模範解答例…

筆者は、「努力は報われる」という考え方に対し、それが常に正しいとは限らず、成果だけで努力を測るのは適切ではないと述べる。その上で、報われない努力にも内面的成長や他者との共感といった価値があるとし、社会の成熟には、結果ではなく努力の過程や意味に目を向けることが必要だと主張している。(140字)

別解例①

努力が報われるとは限らず、そこには出発点の違いや偶然性といった要素が介在する。それでも筆者は、努力に内面的成長や他者との連帯といった成果とは別の意味があると述べ、社会は結果だけでなく、努力の過程やそれがもたらす価値にも注目すべきだと訴えている。

別解例②

成果主義により努力が結果に結びつく信じられているが、筆者はその前提に疑問を呈し、成功には偶然や環境の影響も大きいと述べる。その上で、報われない努力にも自己理解や他者への共感といった見えない価値があると主張し、努力の意味を再評価する必要性を説いている。

問6 記述問題 (200字以内)

模範解答例..

私は、報われなかった努力にも大きな意味があると思う。仮に結果が伴わなくても、その過程で得た知識や経験、人との出会いや感情の変化は、その後の人生に確かに影響を与えるからだ。また、自分自身と向き合い、悔しさや希望を感じる中でしか得られない強さもある。さらに、そうした努力を経験した人は、他者の努力にも共感でき、社会の中でやさしさや支え合いの基盤となる。その意味で、報われない努力は人生を豊かにすると思う。(200字)

別解例①..

報われない努力は、確かに苦しく虚しいと感じることもあるが、意味がないとは思わない。努力を通じて身についた力や知恵は、結果には現れなくても確実に自分の中に残っている。失敗した経験も、次に進むための大切な学びになる。何より、自分が本気で取り組んだという事実は、その人の人生の一部として輝きを放つ。他者の努力に共感できる心も育まれる。報われなかったからこそ、見えるものがあると思う。

別解例②..

私は、報われなかった努力こそが人を深めると感じている。結果に結びつかない経験は、失敗として片付けられがちだが、その努力の過程には思いや願い、試行錯誤といった大切な時間が詰まっている。たとえ外から評価されなくても、自分の内側では確実に変化が起きているはずだ。苦しみや挫折を知ること、他者への眼差しも変わる。そうした経験がある人こそが、次の一步を踏み出す強さや優しさを持てるのだと思う。

【自己採点チェックリスト】

- ・ 設問の問いにきちんと答えており、本文の要点を押さえているか
- ・ 接続語や段落のつながりが自然で、論理の流れがあるか
- ・ 語彙が適切で、曖昧な言葉に頼っていないか

【第十問】人間とは何か——孤独とつながりのあいだで

人間とは何か——。これは哲学の最古の問いでありながら、いまだに決着を見ない。理性ある存在、言語を操る存在、社会を築く存在——数多の定義が試みられてきたが、それらはいずれも、人間という存在の一面に過ぎない。むしろ、この問いが繰り返されてきたこと自体が、人間という存在の本質を示しているのかもしれない。すなわち、「自分とは何者か」「他者とどう関わるべきか」と絶えず問い続ける存在であること。自己を問う意識と、他者とのつながりを求める感覚のあいだに、人間の本質はある。

現代の人間観を形づくる上で、精神分析学者エーリッヒ・フロムの指摘は示唆に富む。彼は著書『自由からの逃走』の中で、近代社会における「自由」の二面性を描いた。すなわち、宗教や伝統から解放された現代人は、自由を得た一方で、帰属の喪失という不安に直面する。誰にも指図されずに生きることができない。しかしそのことは、「どこにも属していない」という孤独感や無力感をもたらす。フロムはこのような人間の内面の裂け目を、「孤独」と「つながり」の相克として描いた。

この裂け目は、現代においてさらに深まっているように見える。SNSなどを通じて他者と容易に接続できるようになったにもかかわらず、若者を中心に「自分が誰とも本当にはつながれていないのではないか」という不安が高まっている。これは単に人間関係の希薄化ではない。むしろ「つながり」が絶え間なく要求される社会において、それが本物かどうかを問う想像力が奪われているという点に本質がある。

つながりがあるように見えることと、実際に他者と「関係している」ことは、まったく別のことだ。哲学者マルティン・ブーバーは、人間関係には「我・それ」の関係と「我・なんじ」の関係があると述べた。前者は、対象を手段として扱う関係であり、後者は、互いをかけがえのない存在として尊重する関係である。現代

社会においては、効率性や利便性が重視される中で、「我、それ」の関係ばかりが増えてしまっている。人間同士であっても、他者を「役割」や「機能」としてしか見ない関係が多い。ブーバーの言う「我、なんじ」の関係——つまり、自分も他者もかけがえのない存在として共にいる関係——は、もはや理想論として片づけられがちである。

だが、そうしたつながりの希薄化を嘆く前に、私たちはもう一つの視点を持つ必要がある。それは、人間の「孤独」という性質そのものを見つめ直すことである。そもそも、人は根源的に孤独な存在である。どれほど言葉を尽くしても、他者に完全に自分を理解してもらうことはできない。どれほど愛し合っても、すべてを分かち合うことはできない。孤独とは、他者がいないことではなく、自分の内面に踏み込めるのが自分だけだという感覚である。

ここで重要なのは、この孤独が「悪いもの」ではないということだ。むしろ、孤独は「関係する力」の源泉ともなり得る。たとえば、詩人や作家、音楽家などが、深い孤独から作品を生み出し、それを通して多くの人々と心を通わせるように。孤独を抱えたまま、他者と向き合おうとすること。それは、言葉を超えた共鳴や、沈黙のうちに感じられる理解といった、人間特有の関係の可能性をひらく。

社会学者の宮台真司は、現代人が失いつつあるのは「信頼の空気」だと述べた。何を言っても信じてもらえない、信じるに足るものが見つからない。そのような空気の中では、人は互いに自分をさらけ出すことをためらい、結果として関係の表層だけが残る。ここから抜け出すには、「完全に理解し合うことなどできない」ことを前提に、それでも共にいようとする姿勢が不可欠である。

このとき、人間の「限界性」を引き受けることが鍵となる。私たちは誤解する存在であり、勘違いする存在であり、時に傷つけ合う存在である。だからこそ、「わかりあえないかもしれないけれど、それでもあなたと関わりたい」という想いには、かけがえのない価値が宿る。完全な理解や完全な一致を求めるのではなく、不完全なままに関係しようとする。それは、理想的なつながりではなく、

「現実の中で生きられるつながり」の在り方なのだ。

人間とは何か――。その答えを一言で言い表すことはできない。しかし、ひとつだけ確かなことがあるとすれば、それは、人間が「問い続ける存在」であるということだ。そしてその問いは、常に他者との関係を通して深められてきた。孤独に耐える力と、つながりを信じようとする勇氣。その両方を抱えて生きるころに、人間の尊さと可能性があるのではないだろうか。

《参考資料》

- エーリッヒ・フロム『自由からの逃走』（東京創元社, 1951）
- マルティン・ブーバー『我と汝・対話』（岩波文庫, 1979）
- 宮台真司『14歳からの社会学』（世界文化社, 2008）

設問

問1 語彙理解

次の語句の意味として最も適切なものを、後の選択肢（ア～エ）の中から一つずつ選びなさい。

(1) 裂け目（本文第2段落）

- ア 物理的に破れた状態
- イ あるものの連続性が断たれた部分
- ウ 心情の行き違いや摩擦
- エ 二つの間に横たわる隔たりや不整合

(2) 表層（本文第1段落）

- ア 物事の目立たない内側
- イ 表面に現れた目に見える部分
- ウ 本質に近づいた深い部分
- エ 複雑に絡み合った中間層

問2 内容理解

筆者は、現代社会において、つながりがあるように見えることと実際に関係していることは異なると述べている。その理由を四十字以内で説明しなさい。

問3 内容把握

以下のうち、本文の内容として最も適切なものを一つ選びなさい。

- ア 人間関係は「我・それ」の関係に統一されるべきである。
- イ 人間が孤独であるのは、他者が存在しないからである。
- ウ 完全な理解が不可能でも、関係しようとすることに意味がある。
- エ SNSの普及によって、人間関係の質は向上した。

問4 本文要旨

本文全体の要旨として最も適切なものを一つ選びなさい。

ア 現代人はつながりの濃密さを求めるあまり、孤独に耐えられなくなった。

イ 人間は完全な理解が可能であるという前提で社会を築いてきた。

ウ つながりの喪失こそが人間の尊厳を守る道である。

エ 人間は孤独とつながりの両方を抱えながら、問い続ける存在である。

問5 記述問題

筆者は、なぜ人間の「孤独」に意味があると考えているのか。本文に即して説明しなさい。(百五十字以内)

問9 記述問題

筆者が考える人間らしさとは何か。本文の内容に即して、あなたの言葉で説明しなさい。(百八十字以内)

■解答・解説

問1 語彙理解

(1) 裂け目：

正解：エ

解説：「つながりの裂け目」という文脈から、比喩的に「人と人の関係の不整合や断絶」を意味する。物理的な破れではなく、抽象的な隔たりを示す。

(2) 表層：

正解：イ

解説：本文では「表層的なつながり」や「表面的な関係性」といった形で、深い関係性に対する対比語として用いられている。

問2 内容理解 (40字以内)

模範解答例 (35字)

表面的には関わっていても、実際には相手を道具としてしか見ていないから。

解説

筆者は現代のつながりに対して「道具的」「表層的」「交換可能」といった批判を展開している。見かけ上のつながりと実質的な関係の乖離が論点。

別解例

- ・ 関係しているように見えても、互いの存在を深く見ていないから。
- ・ SNSなどでの接続が増えても、そこに理解や共鳴がないから。

問3 内容把握

正解：ウ

解説：「完全な理解は不可能でも、つながりを願うことに意味がある」という筆者の一貫した立場に基づく選択肢。

問4 本文要旨

正解…エ

解説…本文全体の要点は、「人間は孤独な存在でありながら、なお他者と関係しようとすることに人間らしきがある」という思想にある。孤独かつ関係的、という矛盾を内包した存在としての人間像が描かれる。

問5 記述問題 (150字以内)

模範解答例 (123字)

筆者は、人間が本質的に孤独な存在であるからこそ、他者との関係を切実に欲し、言葉や表現を通じて関わろうとすると述べている。孤独はただの欠如ではなく、自分の内側を見つめ直す契機ともなり、他者の存在を意識し、尊重しようとする感受性を育てる源となるのだ。

別解例

・人間の孤独は、他者とのつながりを求める原動力となる。筆者は、孤独があるからこそ他者を深く求め、関係しようとする力が生まれると述べる。また、孤独は自己と向き合う場でもあり、その内省が他者へのまなざしを育む。関係性は孤独の否定ではなく、その中から生まれるものとされている。

【自己採点チェックリスト】

- ・本文における「孤独」の意義を具体的に押さえているか？
 - ↓「孤独が関係を生む原動力になること」や「内省や感受性を育む契機であること」などに触れているか。
- ・抽象的すぎる表現にせず、自分の言葉で論理的にまとめられているか？
 - ↓「寂しいからつながる」などの感情表現にとどまらず、論理的に理由が述べられているか。
- ・文字数制限 (150字) を意識して、内容を的確に簡潔にまとめられているか？
 - ↓不要な言い換えや同義語の繰り返しがないかを確認。

問6 記述問題 (180字以内)

模範解答例 (173字)

筆者は、人間が不完全で誤解し合う存在であることを前提に、それでも他者に向き合おうとする営みにこそ価値があると述べる。共通理解の不可能性を自覚しつつ、それでも相手を一つの「あなた」として尊重し、関係し続けようとする態度こそが人間らしさである。完全な一致や即時的な共感ではなく、すれ違いや葛藤の中でお共にあるうとする意志が、真のつながりを生むのだ。

別解例

・ 筆者が捉える人間らしさとは、他者との断絶やすれ違いを前提にしつつも、それでも関係しようとする姿勢にある。誤解や孤独を避けることはできないが、それでも相手を「他者」として尊重し、自分の言葉を届けようとする行為には意味がある。すぐに伝わらなくとも語りかけ続けること、関係の不確かさを引き受けることが、人間としての成熟であり、つながりの本質だとされている。

【自己採点チェックリスト】

- ・ 筆者の主張を的確に捉え、「人間らしさ」の定義や特徴を明示できているか？
 - ↓ 「断絶や誤解を前提としながらも関係し続けようとする」と「などの核心に触れているか。
- ・ 本文の具体例やキーワード（たとえば「あなた」「誤解」「関係」など）を踏まえ、自分の言葉で再構成できているか？
 - ↓ 単なる本文の言い換えや引用にとどまらず、意味のある言葉で再表現しているか。
- ・ 180字という制限内で、論理の一貫性と文のつながりに破綻がないか？
 - ↓ 段落内で論点が飛んだり、主語と述語の対応があいまいになっていないかを

確認。

●終わりに——製作者より

ここまでお疲れ様でした！

国語の学習で大切なのは、あなたなりに考え、可能ならばそれを表現し、自分でもう一度味わうことです。頭の中で考えていたときにはよくできていたのに、実際に書いてみると「微妙……？」と感じてしまうこともありますね。これは本文の内容を理解できていないとか、分かっていないとかいうよりも、自分の思うことを自分なりの（感覚をともなった）言葉で把握できていないことが要因ではないかと考えています。同じような例は、国語に限らず、勉学に限らず、スポーツや芸術、何か身に着けたり、制作したりしてみようというときにもしばしば見られます。

では、どうすれば自分なりの言葉で把握できるでしょうか。この問題集の制作者としては、おそらく正解やコツは無いのではないかと思っています。国語に限って言えば、表向き、文章のどこに注目して、どういう言葉に注目して、それを記述式問題の解答に仕立てていくという技術は存在するかもしれませんが、しかし、私たちは考えるとき、受け取るとき、何かするとき、自分の想像している以上に感覚を使っただけで行っているものです。考える内容や考え方、その内容の表明や共有すべからず、それぞれの人々の「感覚」が加わってきますから、極端に言えば同じ文言の文章を書いても受けとめられ方が異なる場合もあるのです。

したがって、古くから奨励されていることですが、修練を積み重ねることがいかにほんの近道だということになりそうです。そのときにも、自分が何をどう感じ、どのように理解して何をしようとしているのかなど、よくよく自覚しながら行うことが大切です。

ここまで問題集をがんばってくれたあなたは、自然とそれができています。何が何でも記述問題をしっかりと書くとか、やり遂げるとか思う必要はありません。多少でも自分なりに注力してみることで、実はものすごく大きなフィードバックを私たちは受け取っているものですから。